



CEReS

Newsletter No. 36

Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング
研究センターニュース 2008年11月
(本号の編集担当：本郷千春)
発行：環境リモートセンシング研究センター
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/>

第14回 CEReS 国際シンポジウム

11月13日、14日の両日に渡って、けやき会館レセプションホールにおいて第14回 CEReS 国際シンポジウム The 14th CEReS International Symposium and SKYNET workshop on “Remote Sensing of the Atmosphere for Better Understanding of Climate Change” (気候変動の理解向上のための大気リモートセンシング) が開催されました。大気リモートセンシング分野の国際シンポジウムとしては、第4回(1998年1月)、第7回(2001年2月)、第10回(2005年2月)に続く4回目の開催でした。今回は、CEReSを中心に展開している東アジアの観測ネットワーク SKYNET のワークショップを兼ねて行われ、地上観測・検証活動にも興味ある発表がありました。

シンポジウム1日目は Aerosol observation and monitoring (エアロゾルの観測とモニタリング)、Atmospheric monitoring and its technique (大気観測とその技術) の2つの口頭発表セッションおよびポスターセッションが開催され、2日目は Radiative effects of aerosol and cloud (1),(2) (エアロゾルと雲の放射効果)、Satellite calibration and its application (衛星データの校正と利用)、Satellite observation and its application (衛星観測とその利用) の3つの口頭発表セッションがありました。口頭発表は29件行われ、そのうち6件は招待講演でした。ポスター発表は26件でした。招待講演は次の通りです。

- John A. Ogren (NOAA, USA)
The WMO/GAW integrated global aerosol observing and analysis system
- Jianping Huang (Lanzhou University, China)
Observation study of dust effect on arid/semi-arid climate

- Young J. Kim (GIST, Korea)
Atmospheric environment change monitoring by active and passive optical methods
- Musali Krishnaiah (Sri Venkateswara University, India; CEReS visiting professor)
Atmospheric features over a tropical station
- Gadanki, India – Lidar observations from troposphere to mesopause region
- Teruyuki Nakajima (CCSR, University of Tokyo)
Role of aerosol and cloud in the Earth's climate
- Rachel T. Pinker (University of Maryland, USA)
Progress in satellite radiation budget research: application to climate issues

シンポジウム参加者は学内36人、学外48人(国内30人、国外18人)で、そのうち学生は30名でした。国外からの参加者の国名は、オーストラリア、バングラデシュ、中国、インド、インドネシア、モンゴル、ネパール、韓国、アメリカ合衆国で、アジアを中心とした多数の大気分野、関連分野の研究者によって熱心な議論が交わされました。

(高村民雄、久世宏明)





第 18 回 国際水文計画トレーニングコース

The 18th IHP トレーニングコースで CEReS 教員が講義、演習を担当しました。第 18 回 国際水文計画 (IHP; International Hydrological Programme) トレーニングコースが、2008 年 11 月 3 日～15 日の 2 週間に渡り、名古屋大学と JAXA にて実施されました。今年のトレーニングコースは名古屋大学地球水循環研究センター 増永浩彦 准教授がコンビーナとなり、“Satellite Remote Sensing of Atmospheric Constituents” と題し、衛星リモートセンシングによる大気計測を様々な視点から講義することとなりました。

ここで、CEReS からは樋口准教授が “Lecture 6: Geostationary Meteorological Satellite” を担当し、静止気象衛星に関する基礎知識と応用例を説明し (写真 1)、当センターの VL の活動も説明しました。山本 VL 特任教員が “Practice 1: Geostationary Meteorological Satellite (GMS) Data Analysis” を担当し、実際に静止気象衛星データを扱い、データ処理を行いました (写真 2)。



写真 1 : 講義時の様子。

静止気象衛星であることからアニメーションを多用し、高時間分解能で地球を捉えることができることを示した。



写真 2 : 演習の風景。

受講者は普段使っている Windows とは異なる環境 (ここでは Solaris を使った) での解析であるため、担当者や演習補助者が実際にコマンドを打ってやり方を示すことがままあった。

参加者は IHP の事務局があるユネスコ経由で参加申し込みをした人たちが 7 名、名大 IHP 大学院コースからの参加者が 1 名の計 8 名でした。参加国は、韓国・中国・フィリピン・ベトナム・インドネシア・ミャンマー・ラオスで、ほとんどが各国の現業機関からの参加でした。現業機関からの参加ということもあり、参加者の意識は高く、講義、演習ともに具体的な質問が多く飛び交うといった状況で実のある会になったと思います。ホスト機関である名古屋大学地球水循環研究センターのみならず、演習時に使用させていただいた、名古屋大学情報基盤センター演習室を管理されている同センターの教員・職員の皆様、ならびに演習時に演習補助をしていただいた増永研大学院生の豊嶋さん、レッザさんに感謝します。

(樋口篤志)

